



平成29年4月14日(金)  
校長通心 No.2 校長 馬渡教三

### 自分のペースを守ろう (開高 健)

とにかくあなたがたは  
いま  
一本道に立っている  
これは  
前進するより  
しかたのない方向である

こういう明快な構図は  
いかに不安の壁が  
両側にそびえたっていようと  
その後の人生では  
容易に得られない  
性質のものである

道は歩くためにある  
煉瓦は一個ずつ  
積み重ねるものである  
焦らずにおやりなさい



### 「心を開いて、相手に迫る」= 挨拶は人間関係づくりのスタート

本年度がスタートし、一週間が経過した。対面式での生徒会メンバーの役者ぶりやスイッチの切り替えの素早さ、吹奏楽の力強い「八木節」、2～3年生の精いっぱい頑張り校歌、どれをとってもエネルギッシュで、1年生には最高の「おもてなし」になったと思う。各学級では、自己紹介だったり…、そろそろ自分の係活動が決定したり…、一学期の目標を考えたり…、なんとなく気の合う仲間と同じ匂いを感じながらも手さぐりの人間関係づくりが…と、言ったところだろうか？ いよいよ今日から授業もスタートした。授業に来てくださる先生方の授業スタイルにも慣れなければならないし…、宿題や提出物も出るし…、本格的な学校生活のスタートである。

「友」という字は、古い時代は「𠂔」と書いたらしい。「手」を表す文字が二つ重なった字であり、同じ「志」を持つ人同士が手をつなぎ合って助け合うという意味がある。そういう意味では、共通する目標や決意のある人同士は「友だち」になりやすいし、例え一人になっても生きる強さを持っている人同士は、真の友情を結べるような気がする。友情の基本は「自分自身が誠実で変わらないこと」だから「相手が自分のことを思ってくれているのだろうか？」とか「相手は裏切らないだろうか？」という憶測でつながっている友だち関係は、壊れやすいかもしれない。「自分が相手を思う」という原点に立ち、例え相手に裏切られたとしても「自分は裏切らない」のなら、一時的に好かれる嫌われるという感情の枠を超え、心から相手を思い一緒に成長していこうという、生き方になっていく…。各クラスでの人間関係づくりがスタートした今、一番大切なことは「自分を知ってもらう」と「相手を理解する」ためのコミュニケーションであり、そのコミュニケーションのスタートは何と言っても「挨拶」である。

挨拶の「挨」には「開く」、「拶」には「迫る」という意味がある。だから、心を開いて相手に近づいていくのが挨拶の本当の意味だと言われている。プラスして「おじき」は、感謝をあわらすから、いつ、どこで、誰に会っても常に感謝し、相手を尊重し、決して先に頭を上げないように心がけるのが本来の姿だと言われている。落ち着いてゆつくりと頭をあげようとする気持ちに「心のゆとり」が生まれ笑顔もついてくる。さらに、「挨」は相手に優しく触れる、「拶」は少し強めに触れるという意味もあり、それが「挨」は押す、「拶」は押し返すということにつながっている…。だから、「挨拶されたら必ず挨拶を返しなさい」ということなのだ。

日本では、昔から神道、仏教、儒教、それに少しのキリスト教が互いに混合し中和しあってそれぞれの時代の生活習慣や言語を包みながら礼儀作法や躰をつくってきたと伝えられている。その時その場に合わせた頭の働きである「知恵」と、心の働きである「慈悲」を寄せ合って生きてきたのが日本人であり、「お元気ですか？」と聞かれると「お陰様で」と答えるのは、あなたの陰の下で生きてさせていただいております。あなたのお知恵とお慈悲のもとで生きております。という感謝の証である。「今の若い人たちは、ひとりで大きくなったような顔をして、人に対する尊敬やいたわりが感じられないね。たくさんの方のお陰であるのをまるで知らないんですね」などとよく耳にするけれど、「お陰」の意味がわかると、年配の方々の、このお言葉が「なるほど」とうなずけてしまう。

また、食事の時は「戴 きます」と言うけれど、人から何かを戴 いた場合、それを両手で押し上げて感謝を表すのだそう。頂戴(ちょうだい)しますの「頂」は山の「いただき」であり、「戴」は「のせる」ということだから、頭の上に乗せるように押し 戴 くというのが本来の意味になる。賞状や卒業証書を受け取る時なんかはまさしくそんな感じである。そして、食事が終われば「ご馳走様」と言う。「走」はもちろんだけど「馳」も、走るということである。こんなおいしい食事をつくるために、大勢の人たちが自分のために走り回ってくださったんだと考えれば「ご馳走様」も大切な挨拶になる。毎日の暮らしの中にある挨拶を考えてみても「おはようございます」「戴 きます」「御馳走様」「行って参ります」「行ってらっしゃい」「ただいま」「お帰りなさい」「おやすみなさい」「さようなら」くらいである。「ごめんなさい」「すみません」「ありがとうございます」を加えてもそんなに多いものではない。爽やかな挨拶が飛び交うことで、人間関係は円滑になるはずである。

さて、3年生は修学旅行、修学旅行は3学年集団を成長させる魔法の4日間と言っていいし、1～2年生は家庭訪問期間。3年生のいない間の部活動を、いかに2年生がリードして春季大会までつなげていけるか？ それぞれの学年にとって大切な一週間になりそうだ!!

